

〈概要〉

今年（2019年）は9月15日から11月30日まで、本県で第34回全国国民文化祭、第19回全国障害者芸術・文化祭が開催される運びとなった。開催期間中、当館では関連行事として2つの展覧会を計画する。ひとつは秋の特別展で、八一と親交のあった陶芸家富本憲吉の作品を奈良県立美術館から借用する予定である。

富本憲吉（1886～1963）は、奈良県生駒郡安堵町生まれの陶芸家。楽焼から始まった陶芸制作は、染付、白磁、色絵、金銀彩など様々な技法を習得し、写生に基づく洗練された独自の模様を生み出しながら数多くの名品を世に残した。1955年に重要無形文化財保持者となり、1961年には文化勲章を受章している。富本は陶印「八一」、「秋艸堂」などを制作しており、八一の歌集『南京新唱』（1924年）の挿絵も描いている。二人の同時代の芸術家を一堂で紹介する初めての展覧会となる。

ふたつ目は、夏の企画展として、「八一の逸品」をテーマに選りすぐりの書の名品を一堂で紹介する。新潟市長室にある扁額「聴無聲」、八一の母校新潟高校のために揮毫した扁額「涵之如海」など、県内各所に所蔵されている八一の名品をはじめ、戦後、昭和天皇が本県を行幸した時の関連作品も併せて紹介する。

そのほか、春は、八一が愛した篆刻家山田正平とのコラボレーション展を企画し、東洋独自の篆刻の美を紹介する。冬は八一と酒をテーマに、県内の酒造会社が所蔵する八一の墨蹟や、酒を題材として揮毫した漢詩の書など、酒文化に対する八一の眼差しを紹介する。併せて第13回写真コンテスト入賞入選作品展を開催する。

普及活動では、①新潟県書道協会所属の書家に展覧会タイトルを揮毫してもらい展示室入り口に掲示②八一往復書簡集「雁魚来往」第7集の刊行（八一の親族・櫻井家）③写真コンテスト全国巡回展などを計画している。

新潟市名誉市民・會津八一の幅広い業績を伝えていくためにも、広い世代に興味関心を抱かせるような視点で企画を展開していきたい。

〈事業計画の内容〉

(ア)展覧会事業 開館日数 283日

分類	展覧会名（仮称）	会期	内容
1 企画展	生誕120年 天才・山田正平の宇宙 ～不世出の文人篆刻家～	4月2日（火） ～6月23日（日） 72日間	新潟市出身で、會津八一が天才と絶賛した山田正平（1899～1962）の篆刻・書画・刻字、會津八一との親交を示す作品資料を中心に、芸術家たちの交流、新潟県内に残る作品などにも焦点を当てて紹介する。
2 企画展	會津八一 書の逸品	7月2日（火） ～9月29日（日） 78日間	国民文化祭関連事業。八一の数ある作品の中から、第1章〈県内および当館所蔵の八一の名品〉第2章〈奈良歌の書と古都の映像〉第3章〈皇室と八一の想い〉の3つのテーマ別に、えりすぐりの墨蹟を紹介する。
3 特別展	富本憲吉と會津八一 ～孤高の美の求道者たち～	10月9日（水） ～12月15日（日） 59日間	奈良県立美術館が所蔵する富本憲吉の作品資料を中心に、富本と八一の生きた時代背景や、制作態度などを比較検討しながら、様々な角度から二人の美と個性を紹介していく。
4 企画展	會津八一と酒～一杯一杯又一杯 同時開催 第13回會津八一の歌を映す写真 コンテスト入賞入選作品展	2020年1月4日（土） ～3月29日（日） 74日間	八一揮毫の作品には、酒を題材にした漢詩が多い。また、酒造会社との縁もあり、京都・伏見の増田徳兵衛商店、新潟市の石本酒造、笹祝酒造、長岡市の高橋酒造、新発田市の市島酒造にも八一の墨蹟がある。それらを紹介したい。

展示替えのための休館日	6/24～7/1	8日間
	9/30～10/8	9日間
	12/16～27	12日間
作品解説会	企画展 期間中	月2回（第2、4日曜日）午前11時
	特別展 期間中	毎週日曜日 午前11時

(イ) イベント ※交渉予定も含む

〈講演会・体験講座〉

八一祭記念文芸講演会 講師：松村雄基氏（俳優）と角田勝久新潟大学准教授との対談（交渉中）
演題：「八一の書の魅力」（仮題）
日時：2019年7月31日（水）または8月1日（水）午後2時～3時予定
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：150名 500円

特別展記念講演会① 講師：柳原睦夫氏（陶芸家・大阪芸術大学名誉教授）未交渉
演題：「富本憲吉先生の思い出」（仮題）
日時：2019年秋 午後2時～3時半予定
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：100名 500円

特別展記念講演会② 講師：出川哲朗氏（大阪市立東洋陶磁美術館館長）未交渉
演題：「近代陶磁史と富本憲吉」（仮題）
日時：2019年秋 午後2時～3時半予定
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：100名 500円

春・文芸講演会 講師：富田淳氏（東京国立博物館学芸企画部長）
演題：「山田正平の魅力」
日時：2019年5月31日（金） 午後2時～3時半予定
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：100名 500円

夏・文芸講演会 講師：村尾誠一氏（東京外国語大学大学院教授）
演題：「奈良の八一」（仮題）
日時：2019年7月11日（木） 午後2時～3時半予定
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：100名

冬・文芸講演会 講師：神林恒道 当記念館館長
演題：「會津八一と酒文化」（仮題）
日時：2020年2月 午後2時～3時半予定
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：100名

冬・実地見学 ⇒※笹祝酒造、高橋酒蔵での酒蔵見学
日時：2020年2月下旬あるいは3月上旬（予定）

(ウ)新潟県書道協会所属の書家による展覧会タイトルの揮毫と展示室入口の掲示

年4回の展覧会、1回の展示につき2人に担当していただき、会期の前半と後半にわけて掲示する

(エ)八一往復書簡集「雁魚来往」第7集の刊行

會津八一の親族（桜井家）との往復書簡の読み下し文、註釈、関連資料図版を掲載。
新潟日報事業社で刊行予定

(オ)「會津八一の歌を映す」第13回秋俣道人賞写真コンテスト

公募ポスターと応募要項の制作と発送（2019年4月中）

- ① 審査・結果発表（2019年12月上旬）
- ② 表彰式：2020年1月下旬または2月

(カ) 新潟・京都・奈良交流会

日時：2019年度中（8月下旬あたりが望ましい）

会場：未定

内容：未定

(キ) 学習講座（会費で充当）

會津八一の歌を読む会 「かまづかの会」

講師：若月忠信氏（文芸評論家）

日時：毎月第1土曜日 午後1時30分～3時

会場：砂丘館

(ク) 鑑定会 春秋2回を予定

春の部

日時：2019年6月2日（日）を予定 午後1時30分～3時

会場：會津八一記念館

(ケ) アウトリーチ活動

・4月に會津八一の作品を所蔵しているところ、あるいは団体鑑賞でよく記念館を利用している学校や公民館などに働きかけ案内を送り、依頼のあるところから実施

(コ) 他団体との関連イベント

○「會津八一の歌を映す」写真コンテスト巡回展

奈良県立図書情報館	4月23日～5月6日	入賞入選30点
中村屋サロン美術館(東京都)	5月18日～7月15日	入選入賞30点
いかるがホール(奈良県斑鳩町)	7月21日～8月10日	入賞作品7点
三千院(京都市)	8月12日～8月31日	入賞作品7点
高田まちかど交流館(旧第四銀行高田支店)	9月4日～9月16日	入賞7点 + α
高松市市民活動センター	10月2日～10月31日	入賞入選30点、複製作品など
胎内市産業文化会館(中条會津八一会)	11月上旬(4日間)	入賞入選30点

○青幻舎プロモーション主催 「美と信仰の出会い 棟方志功の福光時代」展

※3点會津八一記念館所蔵品を貸出予定

2019年3月29日(金)～5月6日(日)	鹿児島市立美術館
7月27日(土)～9月23日(月・祝)	南砺市立福光美術館(富山県)
9月28日(土)～11月17日(日)	奈良県立万葉文化館